

2025 年度 事業計画

当財団設立の目的である「潤いのある郷土づくり、豊かでゆとりのある個人生活づくりに寄与する」ことを念頭に引き続き事業活動を行う。

前年度(2024年度)は、事業の充実と効率化を両立させるための態勢整備を実施した。文化情報資産活用のための資金手当て、映像記録の価値向上のためのドローン操縦者資格の取得、見学型企画の充実を図るための旅行事業開始の準備を実施した。一方で、少人数による多角的な事業運営を実現するため、日曜日休館化による交替制勤務の廃止と2事業部への組織改編、イベント申込・受付のシステム(ウェブ)化を実施した。また、展示スペース・利用スペースのリニューアルを行い、文化施設としての快適性と利便性の向上を図った。

これらの施策をベースに、当年度は一つのテーマを「見る」「読む」「聴く」「触れる」という立体的にとらえる企画をさらに推し進めていく。また、文化情報誌『常陽藝文』既刊のデジタル化を進めるとともに、読者層を広げるためのウェブ会員創設の検討を本格化する。藝文友の会については、若手音楽家支援を含めコンサート等催事の充実を図るとともに、会員価値向上と入会機会増加を指向したコンテンツおよび手続きのデジタル化を検討していく。

公益法人認定法改正の趣旨を踏まえて、当財団においては、地域の芸術・文化の発展に資するという目標に向かって、創意工夫とその実践活動の継続に努める。

1. 地域の芸術・文化に関する調査研究事業

当財団の基盤事業として、郷土の歴史・民俗・芸術・自然などのテーマを様々な角度から掘り下げて誌面で紹介するほか、映像として記録・保存する。また、蓄積されたデータの公開を進めるとともに、有意義な活用方法について研究を進める。

(1) 文化情報誌『常陽藝文』の発行

巻頭企画（メインテーマ）、連載記事、スポット記事を通して、郷土の文化、風物を幅広く紹介する。巻頭企画はテーマを掘り下げながらもわかりやすく伝えることを編集方針とし、ジャンルや地域が偏らないようテーマを設定する。

〔巻頭企画（メインテーマ）年間計画〕

月号	巻頭企画テーマ（仮題）	執筆予定者	地域
4月号	開業40周年 鹿島臨海鉄道大洗鹿島線探訪	編集スタッフ	県央・鹿行
5月号	エンジョイ 砂沼	編集スタッフ	県西
6月号	【特集】虎塚古墳	阿久津 久 (藝文学苑講師)	県央
7月号	笠間藩鉄砲師・宮田栄助とその時代	インクライン	県西
8月号	鹿島神宮関連 鹿島信仰	林 圭史 (鹿島神宮文化研究所上席研究員)	鹿行
9月号	石岡の看板建築	インクライン	県南
10月号	いばらきフラワーパーク	編集スタッフ	県南
11月号	真壁の街並みを歩く	庄司 元雄	県西
12月号	【特集】日本遺産 弘道館	小塚 のり子 (弘道館事務所主任研究員)	県央
1月号	版画家・川瀬巴水と渡辺庄三郎	染谷 智幸 (茨城キリスト教大学教授)	全県
2月号	架橋今昔 久慈川幸久橋	倉田 美咲姫	県北
3月号	佐竹氏の秋田転封 ー常陸に残ったもの、帰ったもの	藤井 達也 (水戸市立博物館学芸員)	県央

(2) 『常陽藝文』既刊のデジタル化および活用

- ① 既刊誌面のデータベース化作業およびデータ公開方法の検討を進める。
- ② 在庫を有する号については、テーマ毎のセットによる割引販売および関連講座・セミナー等開催時における直接販売を積極的に実施する。

(3) 『常陽藝文』を軸とした企画の展開

誌面で取上げたテーマに関連した展示・講座・見学会等の企画を普及啓蒙活動、教養研修事業および旅行事業として実施し、郷土文化の理解促進を図る。

(4) 映像資料の記録・活用

郷土の伝統文化・風物の記録、保存を継続する。ドローンの活用により映像の付加価値を高める。

約 40 年間収集した映像の選別とデジタル化を進めるとともに、その公開方法について検討を進める。

2. 芸術・文化の普及啓蒙活動

茨城県に關係する音楽家の紹介と優れた音楽・芸能などに触れる機会を提供するため、県内各地で音楽・古典芸能の公演などを開催する。

また、郷土に関わる芸術の発掘と紹介を目的に、センター 1 階の藝文ギャラリー・藝文プラザにおいて絵画・工芸などの企画展を開催する。

(1) コンサート等催事の開催

ふれあい催事として、茨城県出身の新進音楽家のコンサートを開催するとともに、地元出身の音楽家を中心としたセッションのコンサートを企画、県内各地のホールで開催する。

優待催事として、著名なアーティストなどの優れたステージに触れる機会を提供する。

[ふれあい催事 開催計画]

開催日	会場	演目	募集人員
未定	県内各地 (7会場を想定)	トラベリングパフォーマンス(第3回) 企画制作：公益財団法人いばらき文化振興財団	約 2,000 名
未定	県内各地 (7会場を想定)	トラベリングパフォーマンス(第4回) 企画制作：公益財団法人いばらき文化振興財団	約 2,000 名
未定	佐川文庫 (水戸市)	第 15 回 茨城の名手・名歌手たち 藝文コンサート 共催：公益財団法人水戸市芸術振興財団	収容人員 約 200 名

※藝文友の会会員招待

[優待催事 開催計画]

開催日	会場	演目	募集人員
2025 年 6 月 11 日(水)	水戸市民会館 グロービスホール	ウィーン少年合唱団 主催：公益財団法人水戸市芸術振興財団	300 名
未定	未定	[音楽コンサート・古典芸能等]	未定

※藝文友の会会員優待料金・優先受付

(2) 絵画等企画展の開催

郷土作家展シリーズとして、多様なジャンルの5つの美術企画展を開催する。

[藝文ギャラリー展示 年間計画]

会 期	日数	展 覧 会 名	ジャンル
2025 年 4/ 1(火) ～ 5/31(土)	44	郷土作家展シリーズ第 292 回 西 成 田 育 男 展	現代美術
6/10(火) ～ 8/ 9(土)	45	郷土作家展シリーズ第 293 回 五 味 謙 二 展	陶 芸
8/26(火) ～ 10/25(土)	45	郷土作家展シリーズ第 294 回 雨十題—大観に捧ぐ—	日本画 洋 画
2026 年 11/ 4(火) ～ 1/10(土)	45	郷土作家展シリーズ第 295 回 鎌 田 理 絵 展	日本画
1/20(火) ～ 3/21(土)	45	川 瀬 巴 水 展	版 画

(3) 藝文プラザの貸出

センター1 階の藝文プラザを当財団企画展で使用するほか、地域の方へ創作活動の作品発表の場として提供する。

3. 芸術・文化に関する教養研修事業

生涯学習のニーズに対応し、社会人のための学習の場を提供する。

人文学分野を中心に、茨城県内を中心とした各分野の研究者・専門家による地域に根差した講座を展開する。

(1) 「藝文学苑」継続講座

一般教養・文学・歴史・創作工芸等の講座を継続展開する。内容のリニューアルを図りながら、社会人のより深く学びたいとの意欲に応じていく。次項のオープン講座受講を契機とした受講生の流入により、講座の活性化を図る。

教 室	講座数	受講者見込み	2025/1 月比
水 戸 教 室	63	745	+63
つくば教室	30	393	▲13

(2) オープン講座（短期公開講座）の拡充

オープン講座は、どなたでも参加しやすい講座として 2024 年度から試行的に開始した。土曜日を中心に受講回数を 3 回以下程度とし、郷土の歴史や文化、時流をとらえたテーマをわかりやすく解説する。

県内の各教育委員会、教育機関および博物館等文化施設との連携等によって講座を充実させるとともに、SNS 等ウェブ空間を活用した広報を強化し認知度の向上を図る。

[2025年4月募集講座]

講座名	講師
地域領主から見る茨城の戦国時代 ー 県央・佐竹氏家臣編 ー	水戸市立博物館学芸員 藤井 達也
地質学者とゆく～常陸野Cジオトレンギ ング十三巡り【加波山編】	元筑波大学教授 久田 健一郎
「祈り」と「信仰」からみる地域の歴史 ー 近世・近代の土浦 ー	土浦市立博物館学芸員

(3) その他講座

地方史公開セミナー（茨城地方史研究会共催） 4月・10月 計2回

4. 常陽史料館の運営管理受託業務

常陽銀行が郷土の歴史や芸術文化、金融経済に関する資料を収集し、広く県民に公開する目的で設立した「常陽史料館」の運営管理を行う。

常陽藝文センター事業と連携を図りながら、魅力ある企画展示の開催と広報の強化により来館者の増加を図る。

(1) 貨幣ギャラリーの運営管理

お金の歴史、銀行の歴史を常設展示する。茨城県唯一の貨幣資料展示室であることを積極的にPRしていく。企画展来場者への案内のほか、児童・生徒などの団体にはガイド案内を行い金融教育の一助とする。

(2) 史料ライブラリーの運営管理

郷土文化や金融に関する図書資料を収集し公開する。

(3) アートスポット企画展の開催

郷土の歴史や民俗の展示とジャンルにとらわれない絵画や創作工芸の展示をバランスよく開催する。

[アートスポット展年間計画]

会期	日数	展覧会名または展示作家名
2025年 4/8(火)～5/31(土)	39	道祖土昌男 展 monologue&dialogue
6/10(火)～8/30(土)	55	はにわ ー深い眠りからさめた埴輪たちー
9/9(火)～11/1(土)	40	商いの歴史 看板展
2026年 11/11(火)～1/10(土)	40	北茨城市所蔵 蛭田二郎 彫刻展
1/20(火)～3/21(土)	45	島田裕之 展

5. 旅行事業

当年度は旅行業運営の体制整備に注力しつつ、『常陽藝文』誌や企画展示と連携した茨城県内の歴史遺産や神社仏閣等を専門講師解説付きで巡る、貸切バスを使った日帰り見学会を5回目標に実施する。

〔見学会（案）〕

見学会（案）	関連事業
霞ヶ浦クルーズ 湖上から見る古墳群	『常陽藝文』 6月特集号、はにわ展
鹿島神宮を知る	『常陽藝文』 8月号
筑波山地域ジオパーク 桜川市編	『常陽藝文』 11月号
弘道館と偕楽園 水戸の歴史	『常陽藝文』 12月特集号
川瀬巴水ゆかりの地を巡る	『常陽藝文』 1月号、川瀬巴水展

6. 藝文友の会

（1）会員数計画

〔藝文友の会会員数 計画〕

	2024/3 実績	2025/3 見込	2026/3 計画	年間増減
個人会員	17,527	15,811	14,121	▲1,690
法人会員	988	932	872	▲60
合計	18,515	16,743	14,993	▲1,750

（2）会員特典の実施

- ① 文化情報誌『常陽藝文』の毎月発送・配布（1. 調査研究事業参照）
- ② コンサート等催事への招待・優待
自主催事（2. 普及啓蒙活動参照）および他団体催事に招待、優待する。
- ③ 藝文学苑の受講料割引（3. 教養研修事業参照）
- ④ 提携文化施設入場料の割引

〔提携文化施設〕（2025年12月1日予定：計45施設）
【美術館：12施設】茨城県近代美術館、茨城県つくば美術館、茨城県天心記念五浦美術館、茨城県陶芸美術館、大洗美術館、笠間日動美術館、月山寺美術館、古河街角美術館、しもだて美術館、春風萬里荘、篆刻美術館、水戸芸術館現代美術ギャラリー
【博物館：19施設】アクアワールド茨城県大洗水族館、板谷波山記念館、茨城県立歴史館、大洗海洋博物館、大洗幕末と明治の博物館、北茨城市歴史民俗資料館（野口雨情記念館）、ギター文化館、古河文学館、古河歴史博物館、下妻市ふるさと博物館、大本山願入寺開基堂、常磐神社義烈館、日立市かみね動物園、日立シビックセンター科学館天球劇場、常陸風土記の丘、本場結城紬染織資料館手緒里、水戸市立博物館、ミュージアムパーク茨城県自然博物館、予科練平和記念館
【健康・スポーツ・体験施設：14施設】阿字ヶ浦温泉のぞみ、奥久慈茶の里公園、きぬの湯、四季彩館、乗馬クラブ・クレイン竜ヶ崎、竜っちゃん乃湯、つくば牡丹園、つくば湯、ぬく森の湯、ビアスパークしもつま温泉施設、ホロルの湯、森林の温泉、八千代グリーンビレッジ憩遊館（けいゆうかん）、竜神大吊橋

- ⑤ 常陽藝文センター施設利用料割引

7. その他受託業務等（収益事業）

常陽銀行の美術品管理・カレンダー企画制作業務、公共団体や民間企業からの映像制作業務および常陽施設管理から貸室業務の受託を予定する（前年度同様）。

以上